

払沢の滝

ほっさわ

東京で唯一の「日本の滝百選」



払沢の滝は、落差およそ六十メートルの四段からなる滝です。

全体がはつきりと見えるのは、最下段の一の滝で、

落差は約二十六・四メートルです。

毎年八月に、払沢の滝夏まつりが行われています。

まつりでは払沢の滝がライトアップされ、

幻想的な風景が訪れた人の目を楽しませてくれます。

冬には寒さが厳しいため、滝が結氷します。

このように、春夏秋冬でいろいろな表情を見せてくれます。



Hossawa no Taki

檜原村 払沢の滝

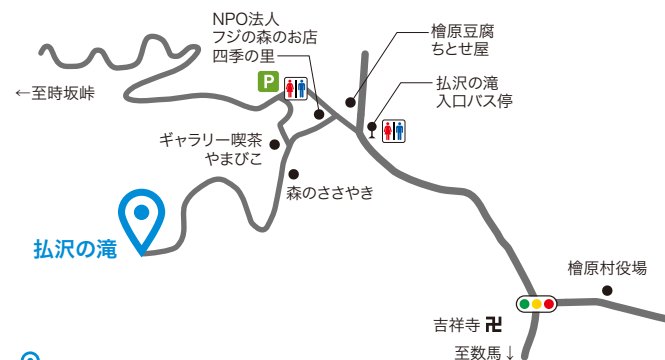
ほっさわ

名前の由来

昔は払子（ほっす）の滝と呼ばれていました。と言いますのも、滝の水が流れ落ちるさまが、僧侶の払子を垂れたように見えたからです。そこで、払子の滝がある沢なので払子の滝沢、払子沢、払沢となり、今現在では払沢の滝と言われ、多くの人に知られています。

伝説

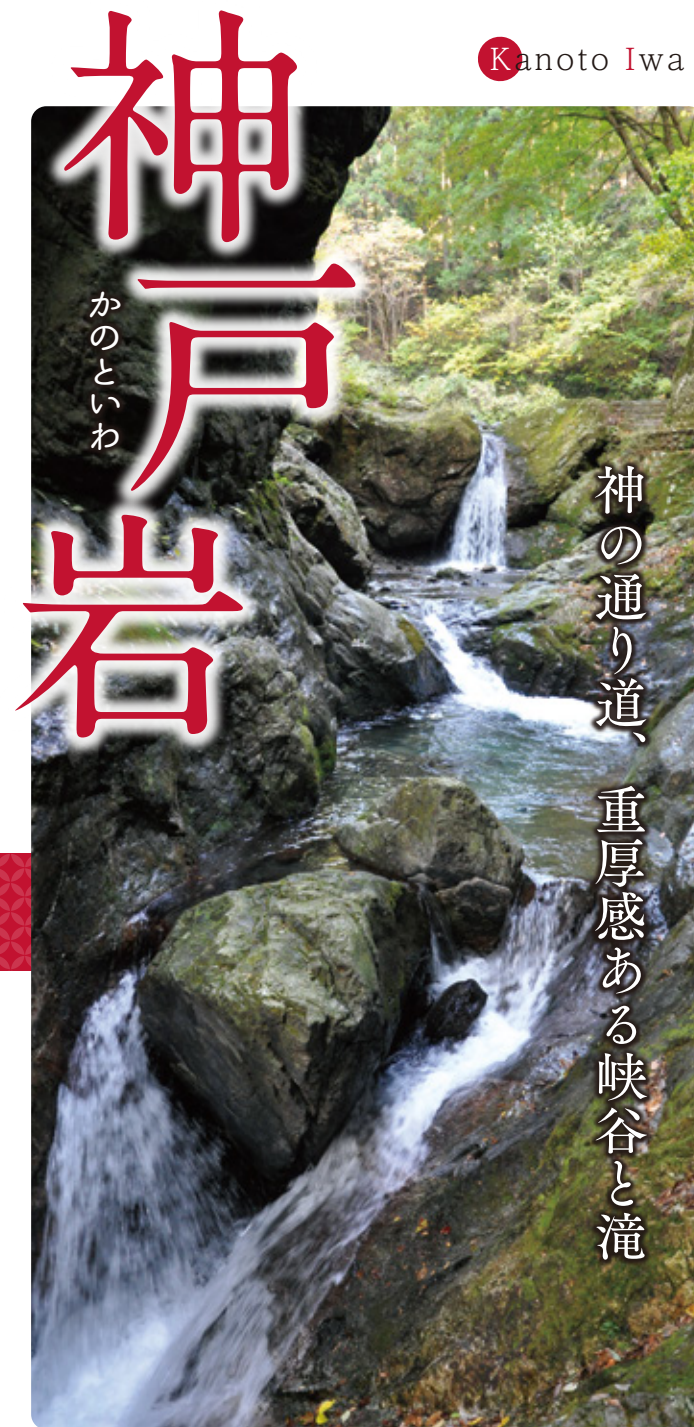
近年、土砂の流入によりかなり浅くなってしまいましたが、以前の滝壺は、深くて神秘性が高かったため、主（大蛇）が棲んでいたという伝説が残されています。古老に伝わる民話では、その主は千年も二千年も生き続け、人間など何にでも化けられたそうです。また、別名「雨乞いの滝」とも呼ばれ、昔から村民に拝まれていたとのこと。



払沢の滝へのアクセス

バスで「藤倉」行き、「払沢の滝入口」行き、「数馬」行きにご乗車の場合は、払沢の滝経由又はやすらぎの里経由にご乗車、「払沢の滝入口」にて下車して下さい。「払沢の滝入口」バス停より、徒歩約20分。

▶ 檜原村観光協会 TEL.042-598-0069



神の通り道、
重厚感ある峡谷と滝

かのといわ

名前の由来

神戸岩の名前の由来にはいくつかの説がありますが、その中でも下手から見ると「戸岩（岩戸＝岩の扉）」が半ば開きかけているように感じられ、その延長線上に大獄神社があるため、ここを神域への出入口と見立て、神域の戸岩＝神戸戸岩＝神戸岩となったという説が有力です。

神戸岩とは、北秋川の支流で、神戸川上流部の赤井沢を挟んで対峙する大岩壁を言います。川下から見て右側が高さ約百メートル、上部の幅が約四十メートル、左側が高さ約八十メートル、上部の幅が約八十メートルあり、岩壁の間の奥行きは六十メートル、上部の岩戸の幅は十六メートル、谷底は四メートルあり岩根はひと続きであります。神戸岩の岩質は

チャート（火打ち石）層であるため極めて硬質であります。

その為、川水や風雨による浸食にも耐え、

今見られる狭い谷をつくり、屹立した岩壁を残したのです。

戦前に都から名勝の指定（大正八年）を受け、

さらに国からも天然記念物の指定（昭和九年）を受けましたが、

戦後の法改正で無効となり、昭和三十五年に改めて都から

天然記念物の指定を受けました。

一年中、雄大な景色を楽しめますが、

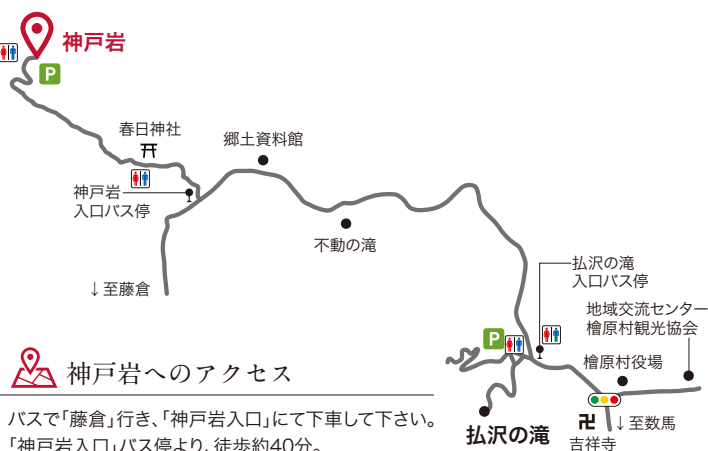
秋の紅葉のシーズンが特に見頃です。



神戸岩

かのといわ

檜原村



神戸岩へのアクセス

バスで「藤倉」行き、「神戸岩入口」にて下車して下さい。
「神戸岩入口」バス停より、徒歩約40分。
（「神戸岩入口」バス停より神戸岩まで約3km）

▶ 檜原村観光協会 TEL.042-598-0069